

## 平成28年5月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,338	8,772	4,441	4,331	52	48
2 千 石	3,918	6,763	3,405	3,358	30	45
3 内 山	5,179	7,392	3,889	3,503	35	41
4 大 和	3,293	6,482	3,192	3,290	74	99
5 上 野	7,211	15,373	7,652	7,721	135	191
6 高 見	7,122	13,260	6,374	6,886	54	84
7 春 岡	6,683	10,763	5,673	5,090	23	40
8 田 代	11,388	21,700	10,443	11,257	54	98
9 東 山	10,192	19,336	9,535	9,801	52	102
10 見 付	4,521	8,422	4,262	4,160	62	71
11 星ヶ丘	3,482	6,837	3,108	3,729	33	67
12 自由ヶ丘	3,540	7,297	3,330	3,967	16	12
13 富士見台	6,400	15,433	7,165	8,268	5	△ 18
14 宮 根	3,728	8,333	3,979	4,354	△ 1	△ 9
15 千代田橋	3,574	8,573	3,986	4,587	3	10
千 種 区 計	85,569	164,736	80,434	84,302	627	881
H27.5.1	83,310	163,981	79,936	84,045	752	1,248
対 前 年 比	2,259	755	498	257	△ 125	△ 367
名 古 屋 市	1,068,276	2,301,082	1,135,890	1,165,192	4,881	5,754
愛 知 県 ( H28.4.1 )	3,081,402	7,441,315	3,742,688	3,744,749	9,975	△ 49,473

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	122	129	△ 7	2,289	1,401	888

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,132	これまでの最少人口	
平成2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果の本市独自集計速報値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

## 千種区の世帯数と人口増減の概況

平成28年5月1日現在の千種区の世帯数は627世帯増の85,596世帯となっており、人口は881人増の164,736人となっています。今回は千種区の世帯数と人口増減の内訳を学区単位で見えていきます。

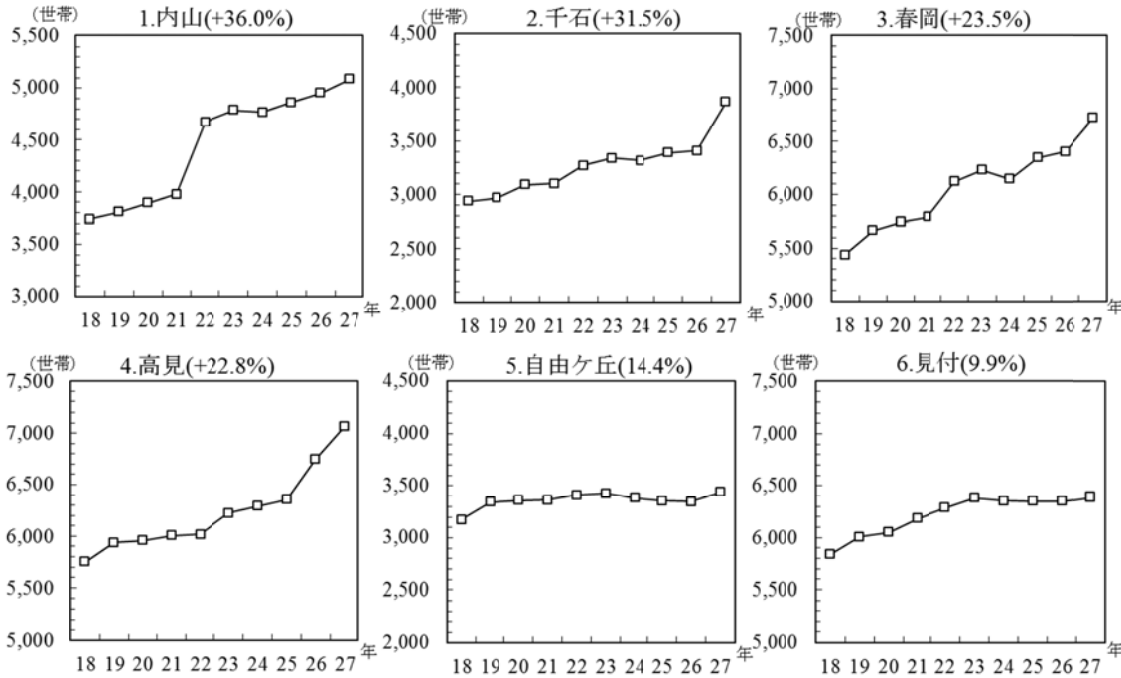
平成27年10月現在の千種区の学区別世帯数は、多い方から田代学区(11,251世帯)、東山学区(10,123世帯)、上野学区(7,160世帯)となっています。世帯増加率(対平成18年10月比)を見てみると、千種区全体では12.3%で、名古屋市全体(9.1%)を上回っています。

図1: 千種区の学区別世帯増加率上位6学区(対平成18年比)

各年10月1日現在

月比)を見てみると、千種区全体では12.3%で、名古屋市全体(9.1%)を上回っています。

千種区の学区別世帯増加率を大きい順に並べると、内山、千石、春岡、高見、自由ヶ丘、見付学区の順になります(図1)。



平成27年10月現在の千種区の学区別人口数は、多い方から田代学区(21,415人)、東山学区(19,259人)、富士見台学区(15,462人)となっています。人口増加率(対平成18年10月比)を見てみると、千種区全体では6.1%で、名古屋市全体(3.3%)を上回っています。

図2: 千種区の学区別人口増加率上位6学区(対平成18年比)

各年10月1日現在

月比)を見てみると、千種区全体では6.1%で、名古屋市全体(3.3%)を上回っています。

千種区の学区別人口増加率を大きい順に並べると、内山、千石、高見、春岡、見付、東山学区の順になります(図2)。

